

魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者への追加ヒアリング結果について

表 1.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果※の整理(相模川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	山梨県 (上流～中流)	神奈川県 (中流～下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> 桂川水系 (山梨県内の相模川) ではヤマメが代表種 (山梨県農政部)。 ウグイ・アブラハヤは在来種 (地域自然財産研究所)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 山梨・神奈川県境より上流に生息 (山梨県農政部)。 ヤマメは本流にも生息 (イワナは支流のみ) (地域自然財産研究所)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 山中湖から山梨・神奈川県境まで生息 (山梨県農政部)。 山中湖及びその他ピンポイントで出現するが、基本的には生息しない (地域自然財産研究所)。 	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> アユ・オイカワ・ウグイが代表種 (神奈川県内水試)。 管轄区域 (山梨・神奈川県境～河口) においてはアユ・コイ・フナ・オイカワ・テナガエビ・ウナギ・ヤマメ・ワカサギ・サクラマスが主な魚種 (相模川漁連)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 本流ではほぼ皆無 (神奈川県内水試)。 津久井湖ではヤマメが採集される (相模湖・津久井湖にヤマメの生息情報がある。それらは上流や流入河川から流れてきたものであると考えられる)。相模湖ではニジマスが採集される (神奈川県内水試)。 大島右堰～小沢堰でみられたカジカは大卵型 (神奈川県内水試)。 ヤマメ・イワナは主に支流に生息、ワカサギは相模湖等止水域に生息 (相模川漁連)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 河口から津久井湖および相模湖に生息 (神奈川県内水試)。 管轄域全域に生息 (相模川漁連)。
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> 山中湖漁協ではワカサギ・フナ類・コイ・ウナギ・オイカワ・ウグイ・オオクチバス、忍草漁協ではヤマメ・ニジマス・イワナ・ブラウンマス、都留漁協ではアユ・ヤマメ・ニジマス・イワナ・ウグイ、桂川漁協ではアユ・ヤマメ・ニジマス・イワナ・ウナギ・ウグイ・オイカワ・コイ・フナ類・ワカサギを放流 (山梨県農政部)。 	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> アユ・コイ・フナ類等放流を実施 (相模川漁連)。
河川環境	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 上流から県境までは岩盤・石が中心で、相模湖上流は砂と泥になる (山梨県農政部)。 瀬と淵がはっきりとした溪谷状の河川で、一部で砂が溜まる場所もある (地域自然財産研究所)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内に大きな障壁は東京電力鹿留発電所の取水口。それ以外には大きな工場の取水等はない (山梨県農政部)。 	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> 河床材料調査結果等で現状を概ね捉えられている (相模川漁連)。 高田橋から小沢堰は石が比較的大きい。昭和橋のあたりは石のサイズもだいぶ小さくなる。昭和橋から河口部へはほぼ一般的な状態 (神奈川県内水試)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内で大きなものは城山ダム、寒川取水堰、相模大堰である (神奈川県内水試)。寒川取水堰、相模川大堰、磯部の堰には魚道設置がある。相模ダムには魚道が無い (相模川漁連)。

※河川水辺の国勢調査では、春から秋にかけて年2～3回以上、河口部、下流部、中流部、上流部等に調査地区を設定し、当該地区で魚介類を捕獲し、種類と捕獲数を調査。国勢調査では得られなかった情報を補完するため、上記表により専門家、漁協等からのヒアリング結果を整理 (以下の河川についても同じ)。

表 2.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(木曾川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	岐阜県 (上流)	岐阜県・三重県 (下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトイワナ、アマゴ、ウグイが最も多い。その他ウナギ、カジカ、アカザ、カマツカがあげられる (長野県木曾川漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワナは恵那市より上流に生息している (岐阜県河川環境研究所)。 ・全域に生息する。味噌川ダムにはイワナが多い (長野県木曾川漁協)。 ・イワナ・アマゴは主に支流の上流に生息している (木曾川中流漁協・日本ライン漁協)。 ・ニジマスは笠置ダムから今渡ダムの区間で生息している (木曾川中流漁協) <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口～中流域 (河口から 100km 程度まで) に多く生息していると考えられる (岐阜県河川環境研究所)。 ・コイは全域に生息する。フナは本流の下流域で若干見られる (長野県木曾川漁協)。 	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、サツキマス、ウナギ、コイ、フナ、ウグイである (愛知県木曾川漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬飼頭首工まではサツキマスが遡上している (愛知県木曾川漁協)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全域に生息している (愛知県木曾川漁協)。
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、アマゴ、ウナギを放流 (長野県木曾川漁協)。 	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、フナ、ウナギ、アマゴ、ウグイ、オイカワを放流 (愛知県木曾川漁協)。
河川環境	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム等によって近年は山からの転石・土砂の供給が少なくなっている (長野県木曾川漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堰などの人工構造物が多くみられる。(岐阜県河川環境研究所)。 	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示資料で網羅されている (愛知県木曾川漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬飼頭首工、犬山頭首工があげられる (愛知県木曾川漁協)。

表 3.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(揖斐川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	岐阜県 (上流)	岐阜県 (下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類 ・本流管轄域ではアユ・カジカ (揖斐川上流漁協)</p> <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲 ・イワナは揖斐川町 (岡島橋周辺) より上流に生息している (岐阜県河川環境研究所)。 ・本流には生息していない。イワナ・アマゴは主に支流の上流に生息 (揖斐川上流漁協)。 ・ヤマメ・アマゴは岡島橋下流周辺から根尾川合流点の区間に生息している情報はない。当該区間ではアユ・ウグイの生息情報がある。</p> <p>③コイ・フナ類等の生息範囲 ・河口～中流域 (河口から 100km 程度まで) に多く生息していると考えられる (岐阜県河川環境研究所)。 ・コイは東杉原の旧ダム堰堤を上限としてその下流に分布 (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①代表的及び特徴的な魚介類 ・本流管轄域ではアマゴ (サツキマス)、フナ、コイ等 (海津漁協)。</p> <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲 ・イワナ・ヤマメ類は湖上・降下時のみ出現 (海津漁協)。</p> <p>③コイ・フナ類等の生息範囲 ・コイ・フナ類は本流全域に生息している (海津漁協)。</p>
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種 ・アユ、アマゴ、イワナ、ウナギ (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①放流魚種 ・ウナギ・ナマズ・ヘラブナ・マブナ (海津漁協)。</p>
河川環境	<p>①河床材料 ・かつては礫中心であったが、近年では全般的に砂で埋まってきている (揖斐川上流漁協)。</p> <p>②堰・ダム ・ダムや堰などの人工構造物が存在し、農業用の取水が多く行われており、瀬切れする場所がみられることがある (岐阜県河川環境研究所)。 ・横山ダムと旧ダム堰堤がある。横山ダムは魚道が未整備。魚道の効果は確認していない (揖斐川上流漁協)。</p>	<p>①河床材料 ・砂質から泥質が中心であり、域内の上流側と下流側では大きな変化はない (海津漁協)。</p> <p>②堰・ダム ・堰・ダム等は存在しない (海津漁協)。</p>

表 4.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(長良川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	岐阜県 (上流)	岐阜県・三重県 (下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、アマゴ、イワナ、ウナギ、コイ、フナ等である (郡上漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワナは美濃市より上流に生息している (岐阜県河川環境研究所)。 ・イワナは郡上郡白鳥町と高鷲村の行政界以北、アマゴは郡上郡八幡町と美並村の行政界以北に分布する (郡上漁協)。 ・アマゴは岐阜市上芥見 (藍川橋) より上流にみられる (長良中央漁協・長良川漁協)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口～中流域 (河口から 100km 程度まで) に多く生息していると考えられる (岐阜県河川環境研究所)。 ・コイは郡上郡大和町と白鳥町との町界以南に分布する (郡上漁協)。 	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、サツキマス、アジメドジョウ等である (長良川漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワナは本流に生息していない。アマゴは放流しているが数量少ない (長良川漁協)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コイ・フナ類は本流全域に生息している (長良川漁協)。
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、イワナ、アマゴ、ウナギを放流 (郡上漁協)。 	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、シラメ (アマゴ)、ウナギ、ナマズ・コイ・フナ・カニ (愛知県木曾川漁協)。
河川環境	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな石の周りに礫が入り、安定した河床となっている (郡上漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堰・ダムは存在しない (郡上漁協)。 	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示資料で網羅されている (長良川漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堰・ダムは無い (長良川漁協)。

表 7.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果概要（淀川）

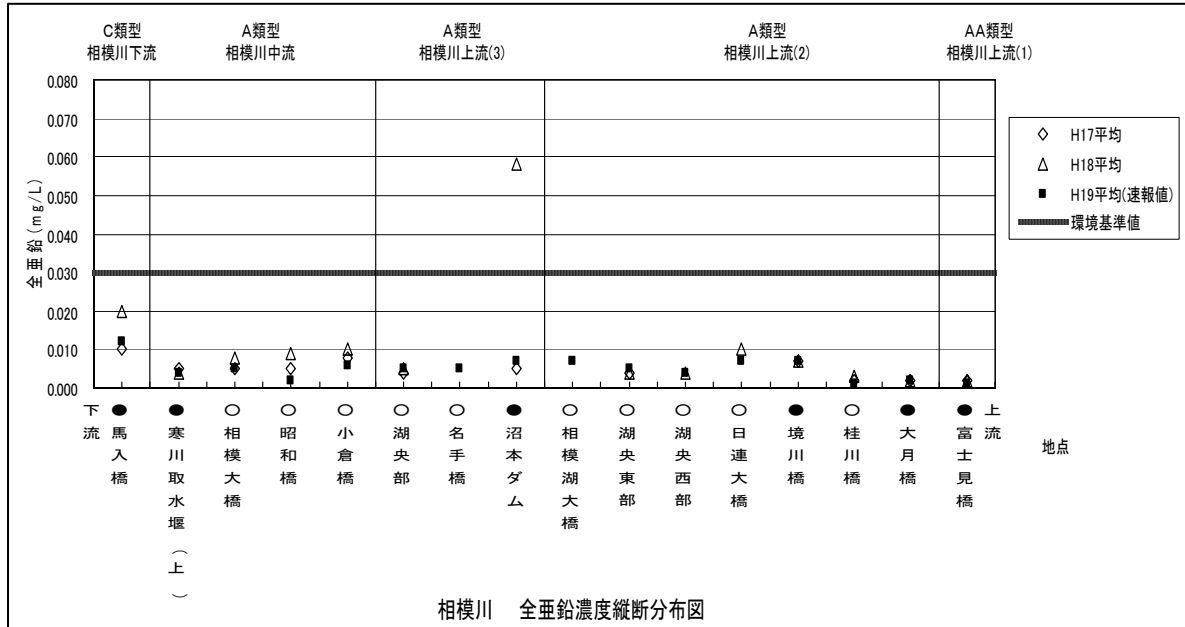
項目	上流	中流	下流
魚介類の生息に関する情報	<p>①代表的及び特徴的な魚介類としてアユ・コイ・フナ・オイカワ等があげられる（宇治川漁協）。</p> <p>②イワナ・アマゴ等は本流内には生息していない（宇治川漁協）。</p> <p>③コイ・フナ類は上流全域に生息している（大阪府水生生物センター）。</p> <p>④河川水辺の国勢調査によれば、鹿跳橋でニジマスが確認されているが、当該種は周辺及び上流支流にて放流等されていること、主な生息域は支川の上流域なので、偶発的に出現した個体と考えられる（滋賀県水産試験場）。</p>	<p>①代表的及び特徴的な魚介類としてイタセンパラ（大阪府水生生物センター）、コイ・フナ類（京淀川漁協）である。</p> <p>②イワナ・アマゴ等は本流内には生息していない（大阪府水生生物センター・京淀川漁協）。</p> <p>③コイ・フナ類は中流全域に生息している（大阪府水生生物センター・京淀川漁協）。</p>	<p>①代表的及び特徴的な魚介類としてイタセンパラがあげられる（大阪府水生生物センター）。</p> <p>②イワナ・アマゴ等は本流内には生息していない（大阪府水生生物センター）。</p> <p>③コイ・フナ類は下流全域に生息している（大阪府水生生物センター）。</p> <p>④淀川河川事務所及び大阪府水産課において、1987年～1999年までサツキマスの放流事業が実施されていた（大阪府では淀川大堰下流で放流）。2000年以降は実施されていない。淀川河川事務所によれば毎年11月末～12月初旬の時期に、1987年は5,000尾、1988年、1991年、1992年は10,000尾、1993年は20,000尾、1994～1996年は10,000尾放流された（淀川河川事務所、大阪府水産課）。</p>

表 11.1 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果概要（琵琶湖）

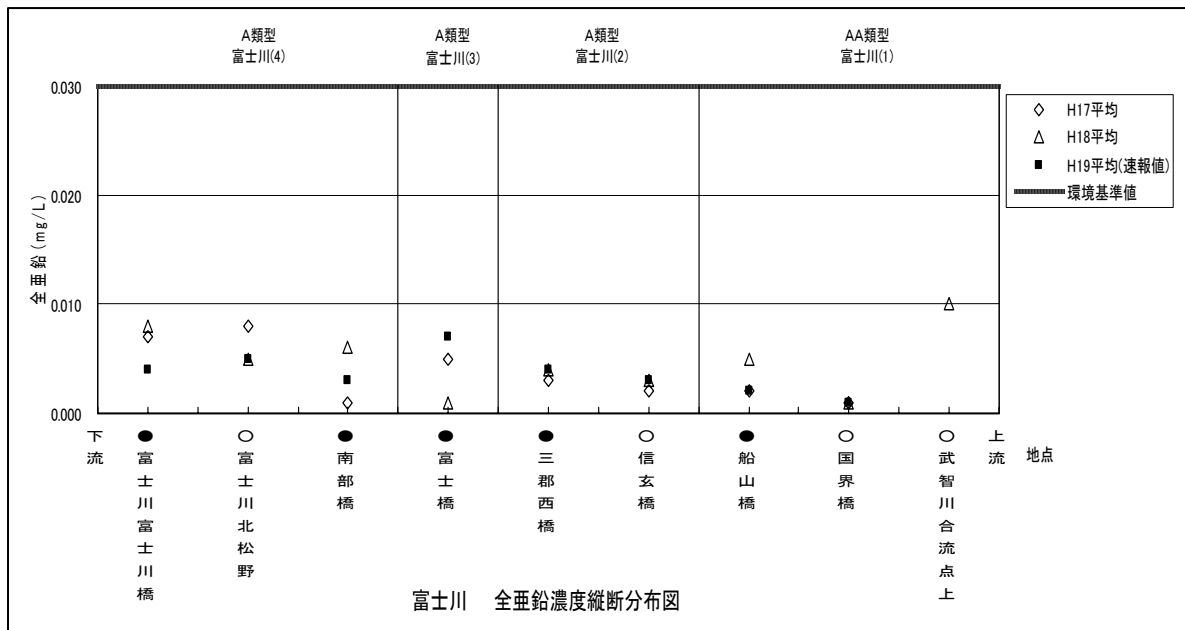
	全域
魚介類の生息に関する情報	<p>①代表的及び特徴的な魚介類としてコイ、ホンモロコ、フナ類、ビワマス、ワカサギ、イサザ、ウグイ、ハス、アユ、ウナギ等があげられる（滋賀県水産試験場）。</p> <p>②琵琶湖の沖合にはビワマス・イサザが生息している。また、イワナ等は琵琶湖に流入する河川の上流部に生息している（滋賀県水産試験場）。</p> <p>③コイ、フナ類は全域に生息している（滋賀県水産試験場）。</p> <p>④-1 ビワマスは琵琶湖の流入河川で孵化した後、琵琶湖内へ流下し、水深の深い琵琶湖の特性に応じながら、浅場から深場に移動・生息し（水温躍層がなくなると上層部に移動するものもいる）、産卵期には再び流入河川へ遡上する（滋賀県水産試験場）。</p> <p>④-2 南湖においてビワマスが生息しているという文献はないが、滋賀県水産試験場が平成 17 年 6 月に種苗放流の効果検証をするため、稚魚(10g)の腹鰭をカットしたものを北湖の中心部にその他の放流魚に混ぜて放流し（2 万/60 万尾くらい）、追跡調査した結果、平成 19 年 11 月に南湖に設置した定置網に標識放流魚が 3 個体、そうでない個体が 10 個体かかっていた事例がある。水産試験場からの聞き取りによると、本来遡上する河川に戻るものが南湖に迷い込んだのではとの話であり、また、今年度は南湖の定置網にかかっていたという情報はなし（滋賀県水産試験場）。</p> <p>④-3 平成 18 年 3 月から南湖・大津市の河川を対象に、ビワマスを取り戻そうと掲げ、市民グループ「ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会」においてビワマスの放流が実施されているが、今のところ放流河川にビワマスが戻ってきたという情報はなし（滋賀県水産試験場）。</p>

※前回資料の資料 4 に H19 の亜鉛の測定値を追加した抜粋版

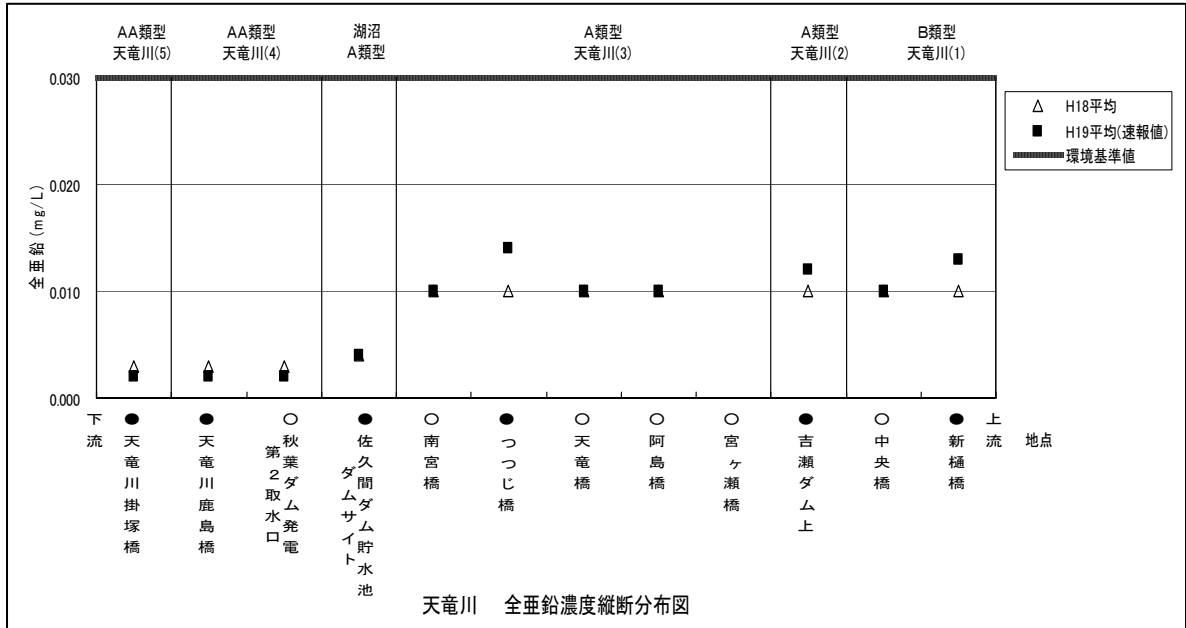
亜鉛の縦断分布（相模川）



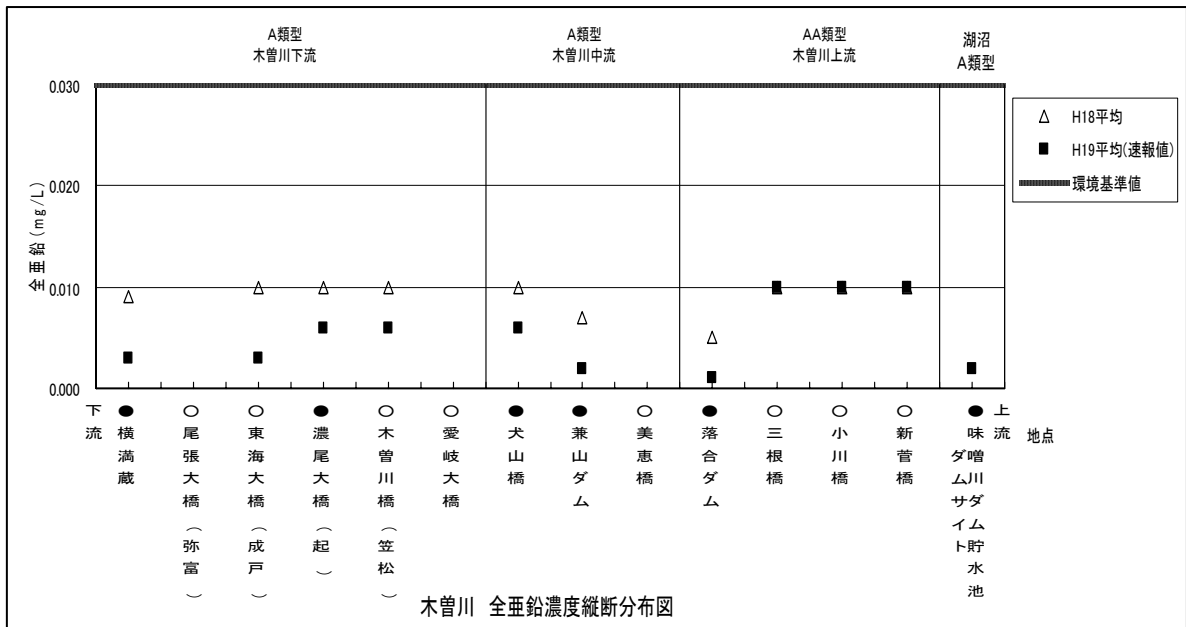
亜鉛の縦断分布（富士川）



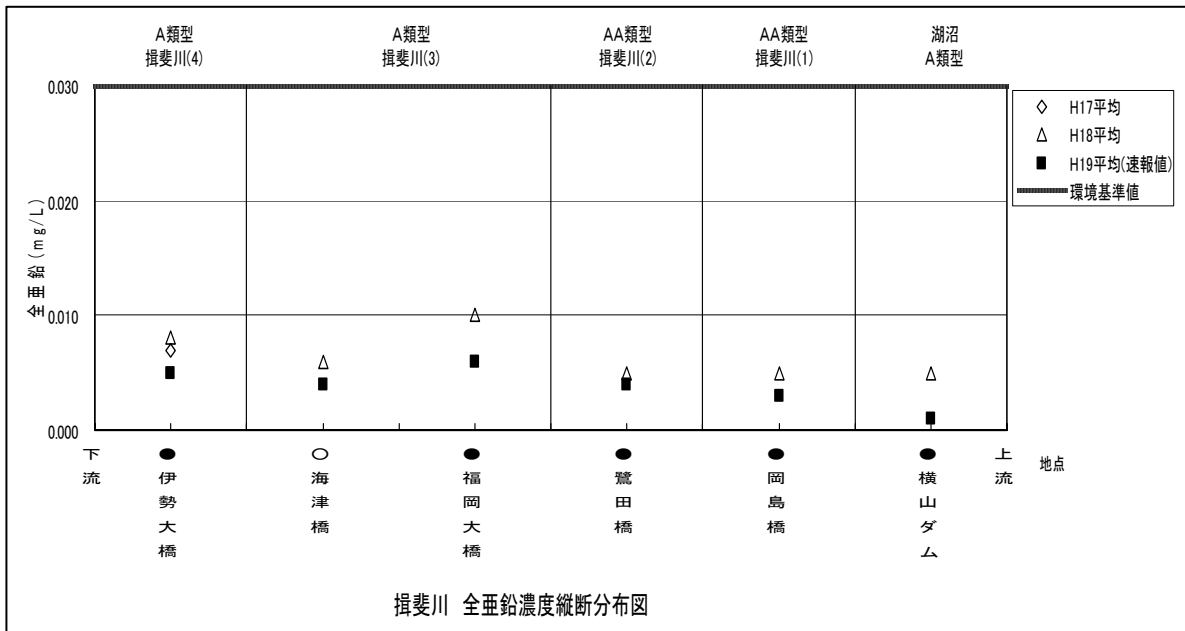
亜鉛の縦断分布（天竜川）



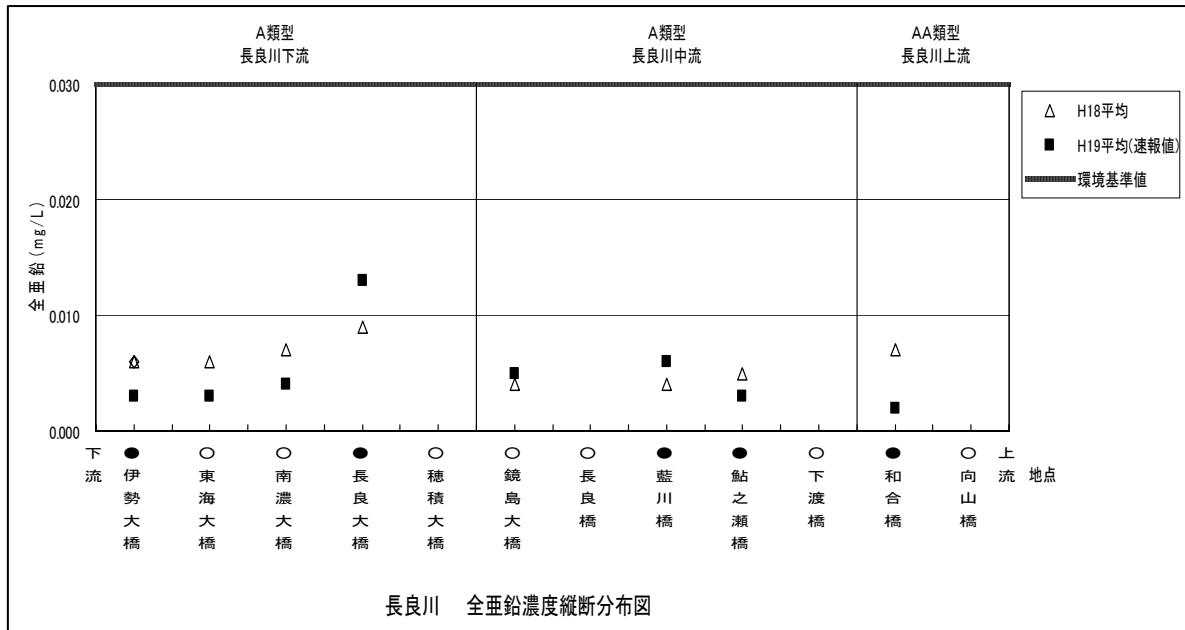
亜鉛の縦断分布（木曽川）



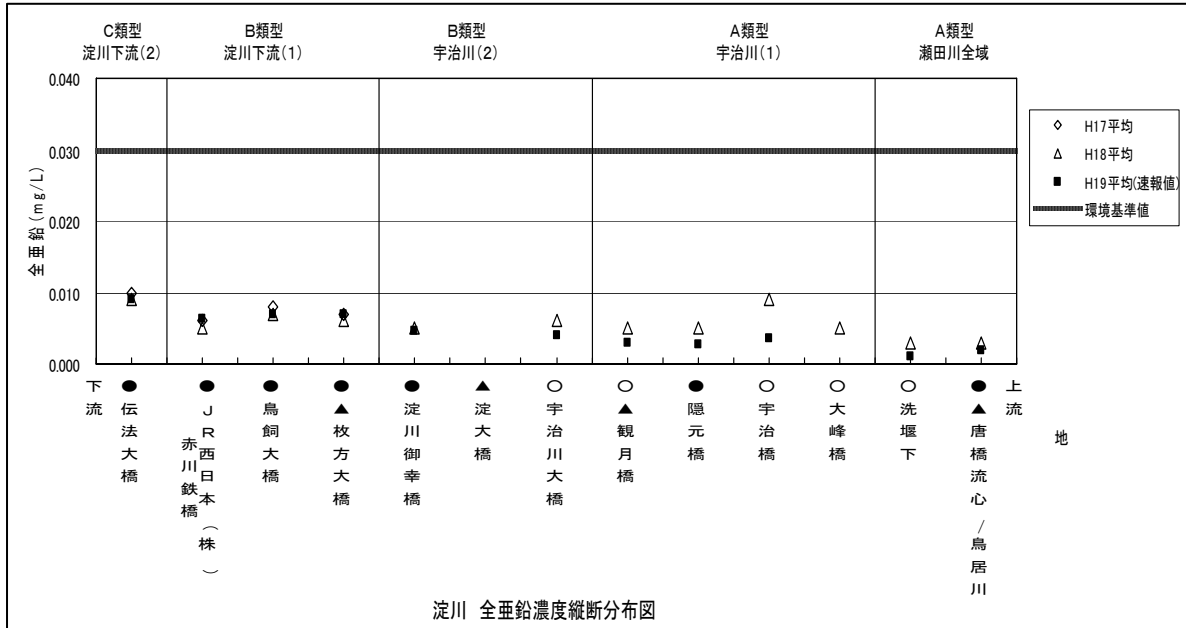
亜鉛の縦断分布（揖斐川）



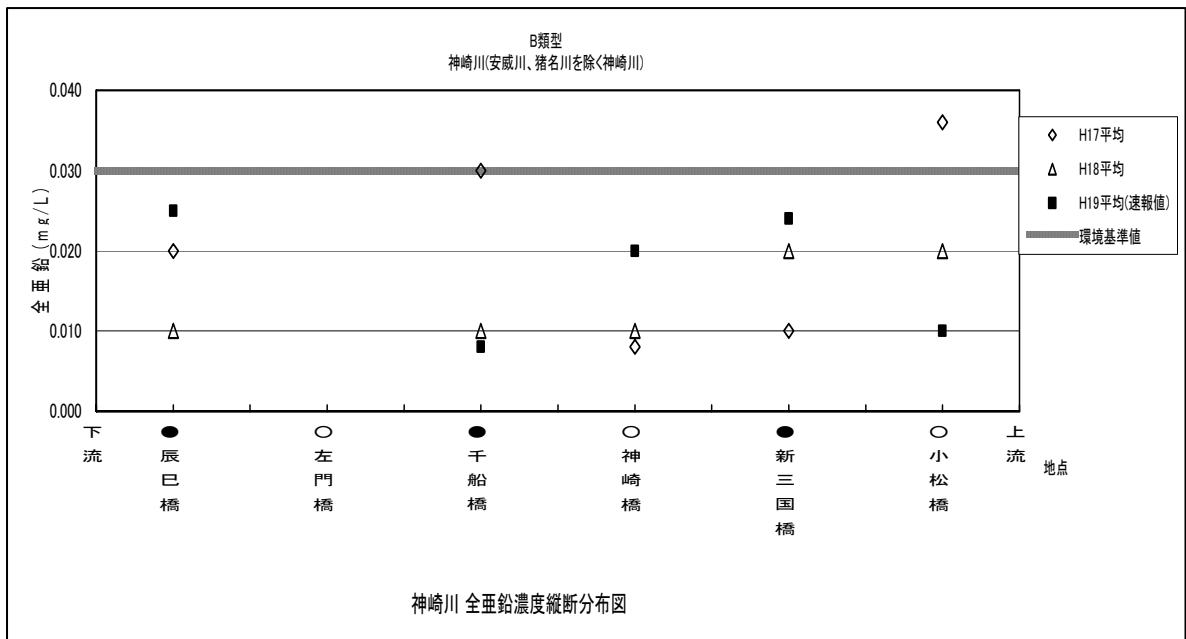
亜鉛の縦断分布（長良川）



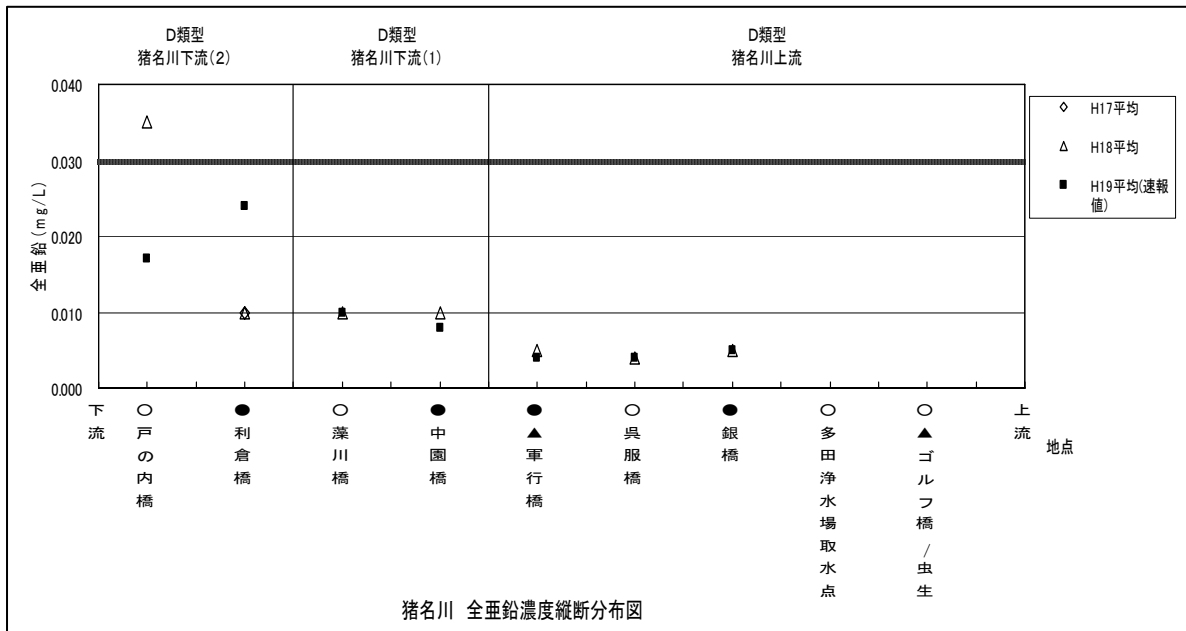
亜鉛の縦断分布（淀川）



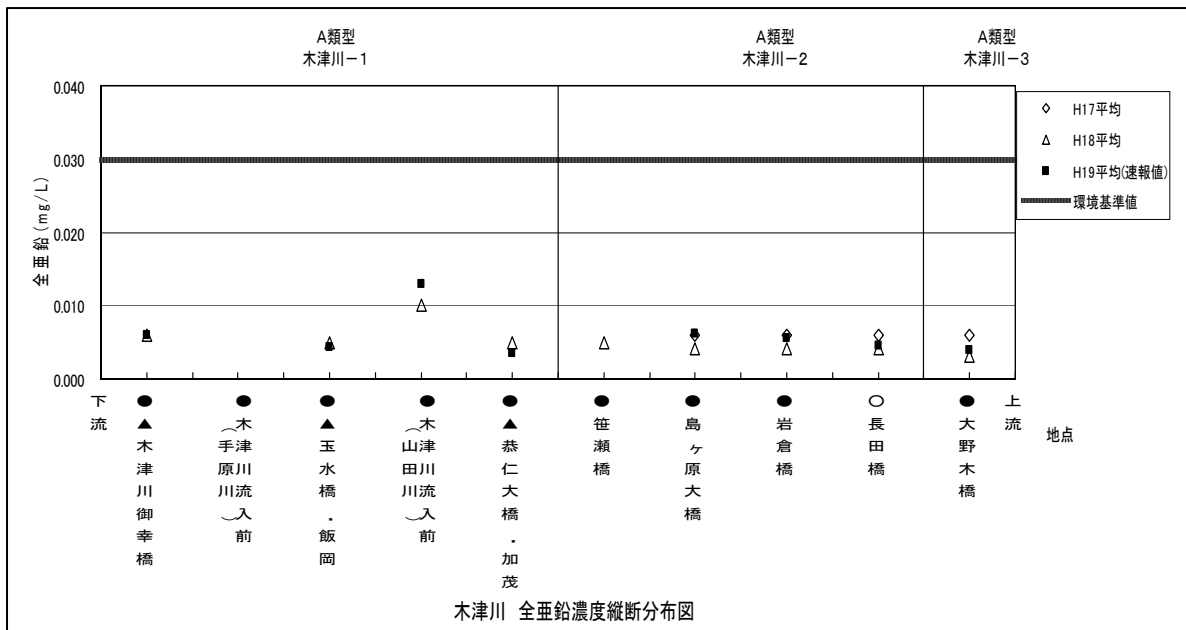
亜鉛の縦断分布（神崎川）



亜鉛の縦断分布（猪名川）



亜鉛の縦断分布（木津川）



亜鉛の縦断分布（琵琶湖）

